

平成30年度 事業報告

[会 勢]

1 会員数

期首(4月 1日) 154会員

期末(3月31日) 154会員

2 会費口数

期首(4月 1日) 894口

期末(3月31日) 894口

3 役員

理事 14名(うち 会長1名、副会長2名、常務理事1名)

監事 2名

4 職員

事務局長(常務理事兼務) 1名、総務班1名、じん芥処理班7名

5 主要施設

施設名	形状寸法等	数量	摘要
(1) 設備			
第一清港丸	木造船 4.8トン	1隻	川崎市より無償貸与
つばき	鋼船 13.0トン	1隻	〃
陸揚げクレーン	2トン吊	1基	〃
油回収装置		1式	〃
フォークリフト	2.38トン積み	1台	川崎清港会所有
(2) 土地・建物			
土地		2,163.048㎡	川崎市より無償貸与
管理事務所	鉄骨造平屋建	56.33㎡	〃
作業員詰所	鉄筋コンクリート造2階建	133.46㎡	〃
焼却炉建屋	鉄筋スレート葺き平屋建	219.30㎡	〃
誘引通風機室建屋	コンクリートブロック造平屋建	32.00㎡	〃
燃料庫建屋	コンクリートブロック造平屋建	9.93㎡	〃

〔 事 業 〕

本会は、川崎港内における漂流物等の除去、及び環境保全の啓発等を行うことにより、海水面を良好な状態に維持し、もって船舶の航行安全、公衆衛生及び環境保全の向上に寄与するため、次の事業を行った。

1 海面の清掃

川崎市から委託された海面清掃船「つばき」及び「第一清港丸」の2隻体制で、平日の午前午後の各一回、川崎港内16運河を中心にして東扇島の防波堤内外と東公園周辺を巡回すると共に、川崎市や海上保安庁、会員企業などからの出動要請にも対応し、じん芥や流木等の収集を行った。

平成30年度の収集実績は表1のとおりであるが、台風の影響が少なかったことなどから、前年度比37.2%減の収集量となった。

表1 平成30年度 じん芥収集実績表 (注) じん芥収集量の中に流木を含む。

月別	稼働日数	稼働人員延数	じん芥収集量	摘要(産廃等)
4	18日	119人	19.75m ³	ウレタン
5	21	92	20.00	
6	19	120	17.00	古タイヤ、捨て網、発泡スチロール
7	21	126	22.50	古タイヤ、発泡スチロール
8	20	126	23.00	冷蔵庫、発泡スチロール
9	17	96	20.50	古タイヤ、発泡スチロール
10	20	81	41.50	古タイヤ、捨て網、電線、発泡スチロール
11	21	118	23.25	
12	16	105	12.00	
1	18	114	10.25	
2	18	102	15.00	古タイヤ、発泡スチロール
3	19	70	19.25	古タイヤ
合計	228日	1,269人	244.00m ³	(20,119kg)
29年度	236日	1,316人	388.50m ³	(35,735kg)

※ドック入り期間 「つばき」5/14～5/28、2/22～3/18
「第一清港丸」10/3～11/5

2 流出油の事故処理

本年度は、油流出事故による出動要請は無かった。

本会は、「川崎管内排出油等防除協議会」主催の講習会に参加するとともに、協議会や川崎市の出動要請に対応するため、海面清掃船「つばき」に油回収装置を搭載して稼働させる訓練を4回行い、即応態勢を整えた。

3 環境保全の啓発

(1) 「海の月間」

7月に行われた「東京湾クリーンアップ大作戦」に参加し、海面清掃船2隻に「海をきれいに安全に」の横断幕を掲出するとともに、清掃活動の詳細な収集データを提供した。

(2) 「清港会独自キャンペーン」

8月に当会の独自キャンペーンとして、「きれいな海を未来の子どもたちへ」を合言葉に、当会作成のアニメ調のポスターを市営バス車内（塩浜営業所管内）に掲示するとともに、会員各位に配布した。また、海面清掃船2隻に「きれいな海を未来の子どもたちへ」の横断幕を掲出した。

(3) 「川崎みなと祭り」への参加

10月6日・7日、川崎マリエン前広場に川崎清港会のブースを設け、清港会の活動状況を紹介した。また、清港会職員が操船時などに使用しているロープワークを日常生活や火災、地震発生時等に応用できるよう市民を対象に「ロープワーク教室」を開催した。

(4) 事業活動見学会

川崎市や「川崎みなとガイド協会」等が行う川崎港見学の一環として、清港会の海面清掃船の活動状況や、収集したじん芥・流木の状況説明を行い、特に収集量の多いビニール袋やペットボトルの投げ捨て防止をアピールした。

(5) 川崎マリエンでの啓発展示

公益社団法人川崎港振興協会との協働で、清港会の活動紹介や川崎港の環境保全への理解を市民に深めてもらうための展示を川崎マリエン2階に於いて行った。

この展示品は、「川崎みなと祭り」の際にも川崎清港会のブースに展示しており、環境保全への理解を促進するため活用している。